

事業所名	グループホーム「海の見える家」 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成16年3月11日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 病院事務長 資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上・臨床工学技士資格取得 B:現職 民間教育機関講師 資格・経験 介護支援専門員登録・ホームヘルパー2級・難病患者ホームヘルパー研修終了
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) (1)職員と利用者が一体となって生活している施設内の雰囲気を感じられること。 (2)海の見える環境と山菜・野イチゴなどが採れ、季節を感じられる施設の周囲環境であること。 (3)看護師資格をもつ職員を配置しており、利用者の健康管理に注意を払うことができる。 (4)利用者職員との関係がとて「家庭的」な雰囲気である。利用者は大変落ち着いた日常生活を送っていた。
特に改善の余地があると思われる点 (1)利用者の自主性と生活感の確保から食事作りは、献立・食材準備など利用者としてできるだけ共同で行なうことが重要である。 (施設周囲に店がないという状況もあるが、食事は家庭生活の基本である) (2)施設背面が傾斜地になっているため災害時の避難経路(避難計画)の確保を図る。 (3)利用者が楽しみの持てる生活環境の整備を行う。 (鶏を飼育しているがもう少し広い菜園などの設置) (4)浴室周辺の整理・整頓を行なうことにより、入浴時等に施設スペースをより有効に使用できるのではないだろうか。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 個人を尊重してごく自然な日常生活を過ごせるよう支援する。 職員と利用者との人間関係作りを大切に、「人生の先輩」として接することによりお互いにリラックスした状態で生活できる環境を目指している。 利用者の過去の経歴も交えて介護ができるように常に向上心をもつ。 グループホームの役割として「痴呆」という疾患を理解した上で、「家庭的な雰囲気の中で残りの人生を穏やかに過ごす」ことの素晴らしさを提供できる介護を追求している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用		○
5	場所間違い等の防止策		○
記述項目	入居者が暮らしていて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 家庭生活を意識した利用者との職員との人間関係で落ち着いた生活空間をつくる。 現在はまだ実現できていないが、個人個人のプライバシーを尊重しつつ、解放された隔離されない空間を充実させることを目標にしている。 統一された方針に基づいてケアを提供するために、「痴呆」に対する職員間の共通理解に努めている。 管理者は利用者との職員の特徴を把握して、施設運営マネジメントをこころがけている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達		○
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		○
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	病室の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持		○
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持		○
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 管理者は個人の経歴・職歴を把握して、各利用者のこれまでの人生経験を尊重しながら、必要以上の介入を行わず、利用者との日々の生活の中で自立支援のための介護を行う。 利用者ひとりひとりの考えを尊重するために、個人の意見をしっかりと聞き姿勢を心がけている。 ひとりひとりが自分のペースを保てるように個別配慮を心がける。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供		○
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元		○
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 (1)課題がおきた時にスタッフ同士の話し合いや記録を通じて問題点の発見に努める。 (2)利用者の笑顔をスタッフの「やりがい」につなげている。 (3)管理者は職員の「接遇マナー」を高めたいという向上心があり、日常の学習の必要性を意識しながら介護している。 (4)問題が発生した時はきちんと記録を残し、今後のサービスにおいては同じことを繰り返さないことを肝に銘じている。		